

# 進路だより

令和7年4月25日発行

岩手県立釜石祥雲支援学校

進路指導部

## 校長挨拶



岩手県立釜石祥雲支援学校

校長 安達 史枝

昨年度3月、高等部から7名の卒業生が巣立っていきました。卒業生全員が式の始めから終わりまで立派な姿勢で大変素晴らしい卒業式となりました。

日頃より、保護者の皆様からいただいている御支援と御協力のおかげと感謝しております。ありがとうございます。

毎年3月になると、高等部3年生は卒業を迎えそれぞれの進路先に飛び立っていきます。それは、小学校・小学部、中学校・中学部の積み重ねの上にあります。そして、周りの大人達が子ども達をよく理解し、今何を支援してどのような手順で実践するかを考え、その子ども達なりの自立や自信につなげるという視点をもって取り組んでいるかどうかで子どもの成長度は大きく変わっていきます。

「支援の基本は、できることは自分でやろうとする子どもの気持ちの涵養と思います。」とおっしゃった先生がいました。私も同感です。そのためには周りの大人の「待つ」姿勢と、状況によって少しの「後押し」が子ども達の自立に大きく影響すると思います。子ども達に関わる、学校、保護者、地域の方々、関係機関と連携、協力しながら、このような基本的姿勢で子どもと接し、子ども達個々に必要な「生活する力」「働く力」「社会性」「地域と関わる力」を付け、卒業後の社会で活かせるようにすることが大切と考えます。

「生活する力」とは、体力づくり、規則正しい生活、学校生活の定着による心理的な安定、食事・衣服の着脱・排泄等の力が基盤ではないでしょうか。例えば、見通しをもった学校生活と健康管理を意識する力、少ない支援での食事・衣服の着脱・排泄等の力、宿泊やショートステイ等家庭から離れた生活の経験による環境への適応力、公共交通機関の利用や買い物等の社会的な生活力、周囲の状況を判断して人を待つ力、余暇を有効に活用する力、親離れ等自立に向けた力などを培っていくことです。

「働く力」とは、好きなものや好きなことの発見、成功体験を通じた自信の獲得が基盤ではないでしょうか。例えば、好きなものや好きなことの発見と拡充、係仕事の責任と喜び、家庭での役割と喜び、自分で考え行動しようとする力、卒業後の進路実現を図ろうとする力などを拓けていくことです。

「社会性」とは、人との関わりの受入れや自分の気持ちの表現、大人を介した関わり方の獲得、相手に伝わるコミュニケーション手段の獲得が基盤ではないでしょうか。例えば、他者の意見や考えを受入れる力、自分のできることは自分で行いできないことを依頼する力、学校間交流や現場実習など他者との積極的な関わりへとつなげていくことです。

「地域との関わり」とは、地域とのつながりや社会性の拡充ではないでしょうか。地域の子ども会への参加や、小中学部であれば交流籍を活用した交流学习、放課後等デイサービスやショートステイ等の活用などで地域とのつながりや社会性が拡充されます。これらは保護者の方々に御協力いただき積極的に関わっていただければと思います。

小学部から高等部までの12年間の教育は、それぞれの学部毎に子ども達一人一人を卒業後の社会へつなぐ役割があります。子ども達一人一人に今どんな力を付けたらよいか、どんな支援が必要か、卒業後の生活につなげるために今必要な事は何かを保護者の皆様と一緒に確認しながら進めて参りたいと思います。

一年間、御支援と御協力よろしくお願いたします。



# 社会人1年生

(全員載せられなくてすみません。)



株式会社 津田商店  
入社式での辞令交付の様子です。キリリと引き締まった表情から、やる気が伝わってきます。



かまいしケア・ステーション  
食事の後の自由時間。タブレットでユーチューブを見ている。午前中は、お風呂にも入りました。

まりん  
フルーツキャップのお仕事をしています。輪ゴムをはめて半分に折ります。農家さんがリンゴを入れるそうです。



まごころ就労支援センター 釜石  
ラベンダー畑の草取りをしています。実習でも行ったことがある仕事なので自信をもって取り組んでいます。



先日お配りした進路希望調査①(対象：小学部2年生～高等部3年生)の提出が**5月1日(木)**までです。提出がまだの方はよろしくお願ひします。

## 進路担当職員を紹介

今年度の進路担当職員です。進路に関してご不明な点などがありましたら、各学部の担当職員までご相談ください。よろしくお願ひします。



斎藤道幸(高等部)



千葉登志美(高等部)



神駿太郎(中学部)



佐々木良隆(小学部)

